卒業生にインタビュー

今後、ホームカミングディにて、会長からインタビューをご依頼します。ご協力の程、宜しくお願いします！

サッカーとの出会い

釜山　宏氏　十期　卒業生

金蘭千里中学に入学して四〇年が経ちました。毎日の二〇分テストなど一生懸命勉強したことや、今もたまにあう友人たちと出会えたことなど、その後の人生に様々な影響がありましたが、やはりサッカーとの出会いが最大のものでした。

高校に入って本格的にクラブ活動するようになってからは、一九七四年のワールドカップを夜中に生中継で見るなど早くも中毒状態になりました。

その後、大学では体育会サッカー部に入り大学サッカー連盟で運営に携わり、就職してからも社会人リーグでサッカーを続け、息子が小学校高学年になってからは地元のサッカー少年団のボランティアコーチとなり、今はシニアチームで相変わらずボールを蹴っています。

当時はメキシコオリンピック銅メダルの盛り上がりも消え、サッカーはマイナースポーツでしたが、そこからJリーグが開幕し、ワールドカップに出場するなど、サッカーの地位向上を見続けられたのは幸せでした。

五〇歳を超える今までの人生を充実させることができたのも、サッカーの魅力とサッカーを通じて知り合った数々の仲間のおかげです。

金蘭千里がお手本にしたというパブリックスクールのあるイギリスでは、フットボールは子供を大人にし、大人を紳士にすると言われています。

私自身まだ紳士になれていませんが、千里で始まったサッカーと歩む時間の中で一歩ずつ前に進めていければと思います。

今はサッカー以外にも色々なスポーツにふれている私の後輩たちが、立派な大人になることを信じています。

学校という道場で得たもの

弓場上　将之氏　三十九期　卒業生

三十九期生の弓場上将之と申します。今回、尚友会だよりに記事を書く機会を与えていただいたことを光栄に思います。

金蘭千里での、高い志を持った仲間と切磋琢磨し自分の夢や理想に真剣に向き合えた六年間で、私は自分を少しでも理想に近づけようと常に己を律する心の強さと、今でもお互いの考えや理想を、真剣にぶつけ合える真の友を得ました。これらは、私のこの先の人生においても、またと得難い貴重なものとなるでしょう。

現在、私は、かなり遠回りしたものの、幼少期からの夢だった医学部医学科に在籍しています。金蘭千里が世に誇れる医師となれるよう、これからも努力していく所存です。

高一対象

平成二十三年六月十八日（土）

『二十分テストを大切に』。三者三様の相違がある中、この言葉は共通していた。本校の特色である二十分テストを疎かにする人に第一志望合格はあり得ない。この力強い、先輩方の思いを高一生は感じ取ってくれただろうか？サッカー、バレーボール、学校行事等に全力で打ち込み楽しむ、それはとても素晴しい。でもやるべき日々の勉強は、必ず目標をもって諦めずやり切る。書く、声に出す、辞書を引く、調べる、これらのことを辛抱強く、積み重ねていくことで、考える力が育まれる。（松本）

講演者の言葉

京都大　法学部1年
立田夕貴さん
（44期）

進路は「自分はどういう人生を歩みたいかな」と考え始める第一歩だと思います。ですが、この答えは今までとは違いすぐには出

将来、何のプロフェッショナルになりたいのか、今一度考えて欲しい。（松本）

ません。私が皆さんにしてほしいのは、この問いを考え続けるということです。そうしていくと、ある時、自分なりの答えが出てきます。それをキャッチできたならば、しめたものです。さあ、皆さん、始めてみましょう。

京都大　工学部1年
澤崎佳紀さん
（44期）

今の時期は勉強する一方で、色々な経験を積んで欲しい。人間として成長して欲しい。テストの点だけが全てじゃない。人間として未熟な者は、いくら勉強が出来ても、何の役にも立たないし、そもそも人に必要とされない。先輩としては、後輩にはそんな人間にはなって欲しくない。

大阪大　理学部1年
田井聡美さん
（44期）

進路を決めるポイントはさまざまです。私の場合は「理科の教師になりたい」という理由で理系を選択し、理学部を受験しました。別に理系科目が得意だから、不得意だからという理由で理系、文系を決める必要はないと思います。（私はそんなに数学ができるわけでもなかったので）大事なことは将来自分がやりたいことは何であるか、そしてそのためにはどういう勉強が必要かを考えて進路を選択することだと思います。